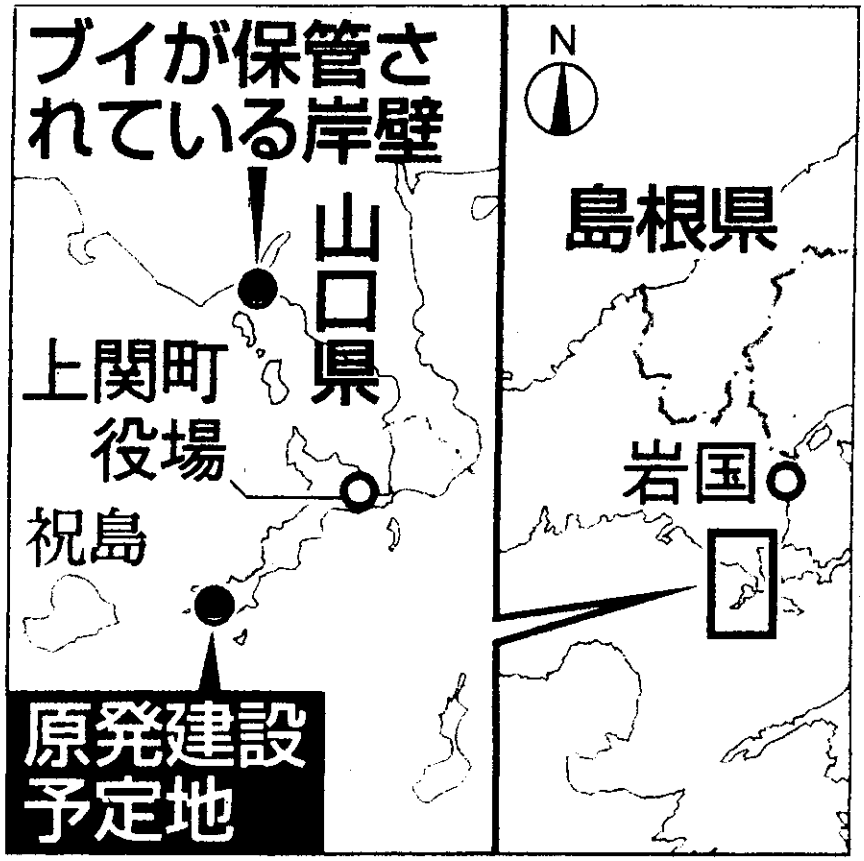
上関原発反対!埋め立て阻止!

2009年秋闘いの記録



編集・発行　上関原発を建てさせない祝島島民の会

〒742-1401　山口県熊毛郡上関町大字祝島218

tel　0820-66-2100　fax　0820-66-2110

E-mail　iwaishima@gmail.com

島民の会ホームページ　http://blog.shimabito.net

まだまだ緊迫した情況は続いていますが、とりあえずの報告です

祝島側から見た2009年9月10日からの現地行動の記録

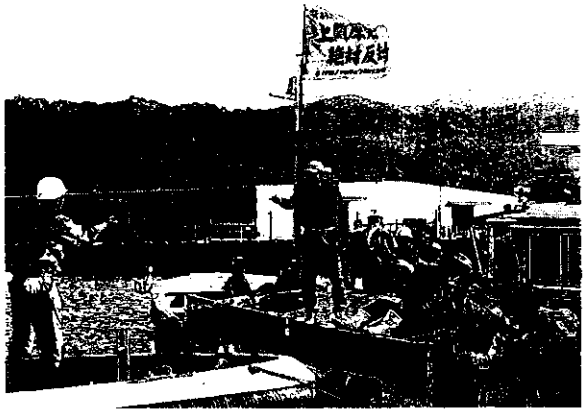
【田名埠頭での灯浮標設置阻止から原発予定地・田ノ浦での工事阻止行動】

9月 9日 中国電力と業者により、翌10日より計画されている灯浮標(以下ブイ)積み出し作業の阻止行動にむけて、ブイのおかれている平生町田名埠頭に夕方到着し、数名が泊まりこみで警戒にあたりました。まだ暖かいので、星を眺めながらの野宿です。

9月10日 早朝より、陸上には祝島をはじめ周辺の市民グループも加わりあわせて60名。海上では祝島漁船30隻とシーカヤックの部対という陣営で作業船の接岸を阻止する為、待機していました。そのうちやってきた中電側は、『警戒船』からしきりに挑発的な暴言を吐くが、こちらは「何を言うか聞いてやろう」と無言作戦で対応。夕方になり、中電側があきらめて帰港しました。

接岸をあきらめ沖合へ向かうクレーン台船。下は漁業者らの船団（10日午後3時21分、山口県平生町で）＝坂口祐治撮影

9月11日 昨日同様の陣営で海上に阻止線を張り、中電側を迎え撃ちました。この日は「口撃作戦」に切り替え、島の『おばちゃん部隊』が、船上から徹底的にマイクで中電側とやりあいますが、圧倒的におばちゃんたちの迫力の勝利です。またしても作業はならず中電は撤退しました。この間の中電側の暴言の数々は、後日明るみに出て、社会問題となります。



説得する中電社員（左）に抗議する祝島の島民ら

≪中電の暴言例≫

◎農漁業だけでは将来島の生活はなりたたなくなっていきます

◎農水産加工なども立派な取り組みだが、それだけでは島はやっていけません

◎高齢者が多く(抗議行動をやめて)帰りたい人もいるのではないですか

対立 長期化の様相

上関原発工事３日連続の中止

岸壁近くのフェンス越しに反対を訴える漁業者ら

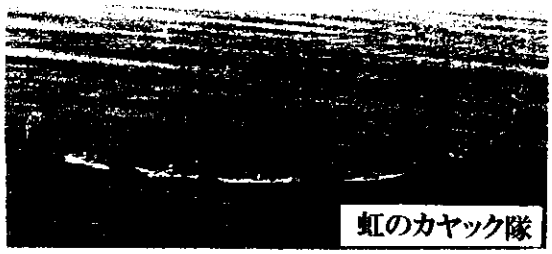
9月 12 日　3日目を迎え、『祝島島民の会』主催で原水禁山口や原発いらん!山口ネット等の参加のもと 250 名で決起集会を開催しました。この日も中電側は作業できず、翌13日は作業中止を宣言して帰っていきました。このころから報道で知ったのか、周辺を始め各地より応援の人達が続々と激励の為、現地を訪れるようになってきました。

9月 14 日　上関町 9 月定例会議が始まりました。中電側は、島民の会の代表、事務局長が議会出席で抜ける為、この日の行動はないと踏んでいたらしく、田名埠頭沖まできたところ、今まで同様の阻止線にかなり動揺した様子です。阻止線に参加している漁船の船名を読み上げたり色々挑発してきましたが、結局この日も、何も出来ませんでした。一方、町議会では祝島出身の議員が 11、12 日の中電側の暴言を厳しく批判し、町執行部を追求した為、推進派である町長もとうとう中電の発言に遺憾の意を表しました。(聞くところによると、町長もよほど腹に据えかねたらしく、即日中電事務所の幹部を呼び、厳しく叱責したとのことです)

9月 16 日　山口県も中電本社幹部を呼びつけ、現場社員の言動に遺憾の意を伝えたとのことです。また、島民の会宛に、全国各地からのカンパや激励の旗が続々と届き、整理に忙しくてうれしい悲鳴が出るほどです。本当にありがたく、私たちの行動の活力のもとになります。

9月 17 日　3日ぶりに作業台船と警戒船が田名埠頭に姿を現しましたが、今までとは打って変わって中電社員がぺこぺこ頭を下げ、マイクでも手に持った原稿を棒読みするだけ。よほど叱られたようで青菜に塩の体でした。しかし、こちらは先日までの人を見下すふんぞり返った姿を忘れるわけにはいきません。彼らの腹の中は見え透いています。「作業実施のお願い」など聞く耳を持つ必要なしで、中電側に何の成果もなくお帰

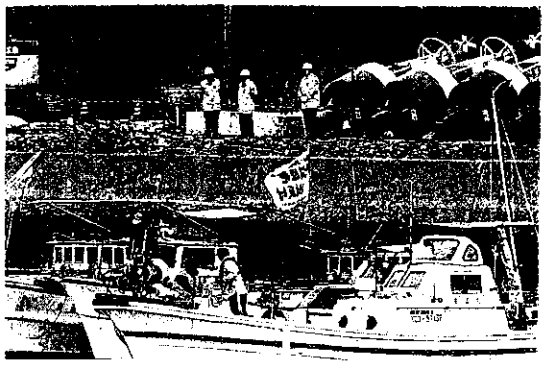
抗議行動を続ける船に向かって、作業への協力を依頼して船上で頭を下げる中国電力の社員たち（左）＝平生町


虹のカヤック隊

りを願いました。

9 月 18 日 性懲りもなく中電側が出てきて、昨日の繰り返しとなりましたが、途中から「貴方たちの行っていることは違法行為です」等と脅しを入れてきました。しかし、「中電に違法行為と言われる筋合いはない!」「違法行為なら保安庁か警察が来て連れて行け!」と突き放され、言い返すことも出来ずまたまたそそくさと帰っていきました。

9月19日 先週に引き続き、今度は今までずっと一緒に活動してきた原水禁山口、原発いらん!山口ネット等と共催で現地集会を開きました。大分、広島からも駆けつけてくれて300名が集りましたが、地元の皆さんもあちこちに見え、うれしい限りです。この日やってきた中電側は、相変わらず何も出来ず、何と昼前には作業中止を宣言し、明日も休むそうです。完全に手詰まりに陥っています。


午前7時ごろ、ブイが置いてある岸壁前に来てロープで漁船同士をつなぐ祝島島民

9月21日 また2日ぶりに中電側が登場しましたが、何らの変化もなく終りました。最近では、周辺・近所の住民の皆さん方の中にも応援してくれる人が増え、「拠点」となっている小屋の前で挨拶をしてくれたり、わざわざ差し入れを持って小屋を訪れてくれたり、体は疲れても心は元気一杯の感じです。ただ、祝島の動員体制はもう限界を超えているといっていいでしょう。高齢で、仕事を休んでの闘いです。みんなの生活と体力を考えると小休止も仕方ないとの判断に傾いています。

9月22日 朝から南の風波が強く、みんなの疲れも考えて、田名埠頭行きを一旦は断念しました。ところが、この日もやってきた中電船団にシーカヤックが10隻で阻止線を張り、がんばっているとの情報が入り、イライラは頂点に。それに加えて、推進派の漁協平生町支店長の山根が「乱入」して、シーカヤックの間を縫うように走り回り危険な行為を繰り返し、中電の警戒船も何度もシーカヤック部隊の中に「突入」して非常に危険な状態になっているとの緊急情報が入ると、もう黙ってはおられません。「救援」の名のもとに、快速船に出動を要請し田名埠頭前に駆けつけました。とたんに中電側は引いてしまいました

シーカヤックに進路を開けるよう要請する中電社員（右）

が、この時点で今まで「仲良し」だったシーカヤックのみんなとも、『仲間』『同士』の間柄になったように思えます。結果オーライです。それと気がつきましたが、祝島の部隊がいたら一応「丁寧な?」対応をしますが、シーカヤッカーだけの時には敵意向き出しで襲い掛かってくること。両者の分断を図ろうとでも思っているのでしょうが、そうはいきません。

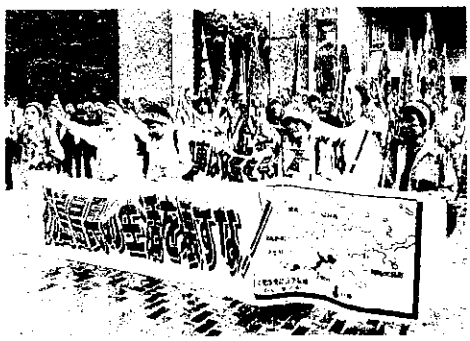
9月23日 昨日のことがこたえたのか、中電側が現地での作業を見送り始めました。それもそのはず、マスコミ特にテレビで放映された昨日の山根や警戒船の暴挙が、各方面で非難轟々!完全に中電、推進派が悪役として「定着」してしまったのですから。

全国から寄せられ、田名埠頭に飾られた「原発反対」のメッセージ入りの垂れ幕やハンカチ

9月25日 当初、我々反対派地元住民に対する働きかけのポーズをとりながら、実際にはマスコミを味方に引き込もうとする狙いの動きばかりしてきた中電も、相次ぐ自らのミス、失態に「殿、ご乱心」の状態となりました。何と!今後は時間を問わず夜間でも「作業準備」をするし、予定も公表しないとのこと。われを忘れてしまう錯乱状態に陥ってしまいました。我々は、その動きに対応し、24時間監視・警戒態勢をとることにしました。しかし、きつい話ではあります。また、県内で子育て中の母親グループが、山口県に埋立免許取消の申入れをしてくれました。本当にうれしく、ありがたい動きです。

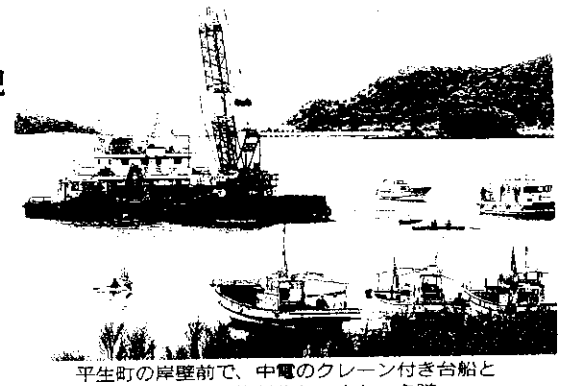
祝島島民が県姿勢批判

県議会を80人傍聴


県庁前の集会で「頑張ろう」を三唱し、原発反対の気勢を上げる祝島島民たち

9月30日 この間、中電の現地での動きはありません。しかし、我々が現地に陣取っているからこそであり、安心して現地を留守にすればいつ作業を強行するかもしれません。その緊張感の中、開会中の山口県議会で今回の問題について質問が行われるということで、祝島を中心にバス2台80人で傍聴に行きました。社民、共産の県議もがんばってくれましたが、二井山口県知事の答弁は、相変わらず責任逃れと「作業中止は求めない」とのつれない(?)答弁に終始。傍聴席からは「自制?」しながらも、抗議の嵐・・・。参加者は若干消化不良、若干ガス抜きの状態で帰ってきました。ただその間、現地田名埠頭ではお父さん方の漁船30隻が睨みをきかして、阻止線を張り続けていました。

10月 1日 ひと段落したと思ったのか、中電の船団が現れましたが、軽くあしらわれ何も出来ずに帰っていきました。


平生町の岸壁前で、中電のクレーン付き台船とにらみ合う祝島の漁船やシーカヤック隊

経産省に署名提出

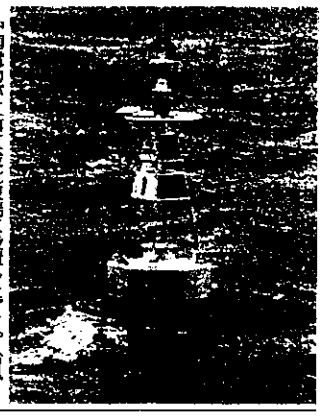
10月 2日 田名埠頭の阻止体制はそのまま継続。代表が東京に行き、原水禁本部の方達らに加わって、『上関原発計画の中止を求める』全国署名61万2613筆を経済産業大臣宛提出するとともに、申入れを行いました。しかし、中央の官僚(しかも下っ端の若造でしたが)達の不誠実さには、怒りがこみ上げてきました。政権が変わったといっても、今の官僚体制では「下々」の願いはかなえられそうもありません。

上関原発反対の旗を先頭にパレード

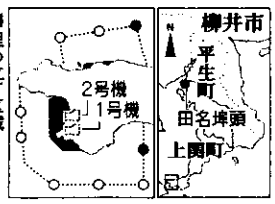
10月 3日 明治公園で『ノーニュークスフェスタ2009』が開催され、全体集会(7000人)が開かれ主催者、政治家と各地の現場からの挨拶があった後、デモ=パレードが行われました。上関現地からも報告させてもらいましたが、実際の地元住民の参加は他にはなく、現状をそのまま物語っていました。

10月 4日 中国電力より、10月1日付の「お願い」なる恫喝ハガキが、抗議行動参加船の船頭宛に届きました。しかしその内容たるや、わざわざ個人別に抗議行動参加日をチェックしていながら間違っていたり、果てはすでに数年前に亡くなった人宛で届いて、家族の怒りを増したり、中電のいい加減さを証明するような代物でした。

10月 5日 台風18号の接近により、祝島の漁船もほとんど島で避難体制に入りましたが、直撃は避けられそうなコースの為、残った船で阻止体制は継続。



中国電力が工事区域北東端に設置したブイ。台風接近で白波に揺れる (7日午後4時30分)



10月 6日 今度は、10月5日付中電御用達の弁護士より『警告書』が届きましたが、先日のこともあり、ほとんどの人が受け取りを拒否しました。この日中電側は初めて台船を伴わない警戒船2隻だけで久しぶりに姿を現しましたが、何かの偵察のようですぐ帰りました。

10月 7日 台風の影響で海が荒れ模様の中、中電の作業船団が田名埠頭に近づき、沖合いで待機していたところ、陸上では業者がブイが岸壁に近く波で洗われる恐れがあるため、陸地のほうに移動させたいと申し入れて来ました。我々としては、作業船団の撤退を条件に容認することを告げ、「本日の作業中止」という

連絡を受けた船団が引き返すのを確認後、ブイの移動作業を監視しました。その作業終了後、祝島の大部分は島に帰り、田名埠頭の監視小屋やテントも台風対策の撤収作業を行いましたが、この間に中電側は他の港から中古のブイ2基を運び、敷設地点に投下したことがわかりました。しかも、即、山口県柳井土木事務所に埋め立て工事着手を届け出ています。

再び田名埠頭にテントを張りブイの運び出しを阻止する反対派

10月 8日 昨日の事態を受け、島民の会としては新たな阻止体制をつくるべく集会を開き、陸側5班海上7班のローテーション制を作り上げ、陸上部隊はブイの置かれてある場所のゲート前で座り込みを開始し、夜も応援の皆さんの協力も得て2時間交替で夜通し海陸の動きを監視し続けることにしました。また、田名埠頭では台風対策で一旦撤去した「見張り小屋」、テント村もすぐに復活しました。

10月10日 10月6日より始まった若者たちによる錦川上流からのカヤックと徒歩の『水のウォーク』が田ノ浦海岸まで到着し、その後、田名埠頭まで移動してきて交流会がもたれました。

陸路班が見送る中、カヌーで錦川にこぎ出すメンバー（岩国市美川町）

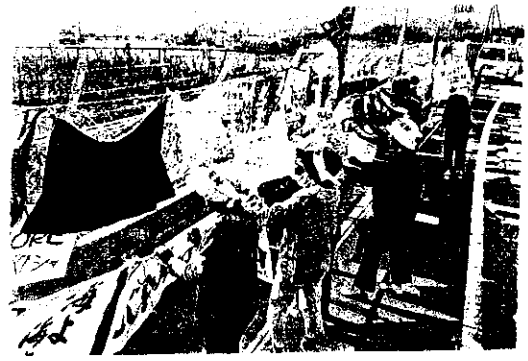
10月12日 参議院議員で社民党『脱原発プロジェクトチーム』事務局長 近藤正道氏が田名埠頭に視察のため訪れました。現地では、座り込んでいるおばちゃんやシーカヤッカーなどと突っ込んだ話をした後、祝島に渡り夕方の定例デモに参加の後、島民の会事務所で今までの経過や現状をDVDを見ながら話し合いました。

社民の脱原発プロジェクト事務局長

参議院議員 近藤

10月13日 近藤議員らは、『長島の自然を守る会』の案内で原発予定地や周辺の視察をした後、再び田名埠頭に戻ってみんなを激励してから、広島の中電本社に申し入れに行きました。聞くところでは、少数ではあれ与党の社民党国会議員に対しても、中電は非常にごう慢で失礼な態度をとったようです。

10月14日 広島から、『上関原発を考える広島20代の会』が山口県に申入れを行おうとしましたが、県側はこれを拒否、県庁記者クラブで記者会見をするとともに、ようやく認められた要望書の提出だけを行いました。



10月16日 業者が、10月7日に陸側に移動していたブイを岸壁沿いに移動させようとやってきましたが、この間の経過をふまえて作業をさせませんでした。

10月20日 こちらの注意が少し散漫になっていたところ、業者がまたもやブイを移動させようと今回は置いてある敷地にまで入りましたが、約30名の陸上部隊によって撤退させました。また、この日昨年提訴した『自然の権利訴訟』で、原告となっているカンムリウミスズメやスナメリなどの野生生物が人と分離され、『当事者適格なし』として訴えが棄却されました。そして、若いお母さんたちが集った『未来につながる生命(いのち)を育てる会』の皆さんが、中電本社に工事中止の申し入れに行ってくれました。

カンムリウミスズメ
秋の上関沖に生息

カンムリウミスズメ。これまで瀬戸内海での秋の観察記録はほとんどなかった＝武石さん写す

10月22日 福島瑞穂社民党党首が明確に上関原発計画反対を表明しました。現職大臣の発言に、経産省や中電が耳を傾けてくれればいいのですが。今後の展開を見守りたいと思います。

上関原発計画見直しの申し入れ書を渡す吉岡すみれ世話人（右）

10月23日 昼間は何もなかったとホッとしていたところ、夕方薄暗くなってブイの置いてある敷地を借りている、上関町内の共同企業体(JV)5社の社員が来て、フェンスに「敷地に入り込まないように」等々が書かれた警告板をつけてかえりました。またこの日、祝島には山口地裁岩国支部より仮処分審尋の期日指定の通知がありました。対象は島民の会、祝島の漁業者38名、シーカヤッカー1名で、中国電力により10月9日付で「公有水面での妨害禁止」仮処分申請が出されていたのです。それにしても、1日付で「お願い」、5日付で「警告書」、9日付で「仮処分申請」とは、いかにも中電らしい機械的な流れです。

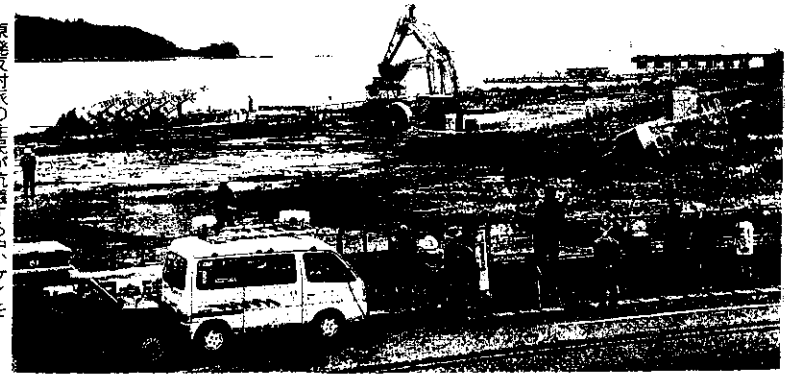
10月24日 台湾第4原発の映画を撮り続けている監督のチェ・スーシンさんらが、夜、監視小屋を訪れ、交流しました。彼女たちとは、祝島での映画上映など何度もあっていて、島民の会事務所には、いただいた旗が飾ってあります。

10月25日 反原子力デーの取り組みとして、田名埠頭で全国集会が開催されました。県内を中心に全国から集った人びとは1200名。早く着いた皆さんは、ずらっと並ぶ激励の旗、監

上関原発計画の中止を訴えて気勢を上げる参加者ら＝平生町田名埠頭

視小屋や「例の」ブイ、そしてこの日講演をしていただいた広河隆一氏門下の写真展などを熱心に見つめていました。天気が心配されたのですが、おかげさまで集会終了までは雨がぽつぽつ程度で安心しました。それにしても、参加者の顔ぶれを見ると上関原発反対運動の拡がりを実感させられます。この日も中電側は一切姿をみせませんでした。

10月26日 こちらが何かやれば、相手側も対抗するように動きをみせます。ブイ敷地内に突然業者とガードマンが10数人姿を現しました。どうも正規のゲートではなく、隣の会社の敷地側から入った様子で、海陸からの抗議の中、ブイ9基をもとの岸壁沿いまで移動させました。さて、作業が終ったからと帰ろうとする作業員らを陸上部隊が抗議の阻止線を張って留めます。業者に関しては数時間後社長が「謝罪」に来たので帰ってもらいましたが、ガードマンに対しては今までの経緯もあり、みんなが許しません。とうとうあたりが薄暗くなる頃まで、8時間にわたって抗議は続きました。


原発反対派の住民が抗議する中、ブイを海岸ノ二直線で移動する作業員

10月28日 先日現地視察をした近藤議員が、環境省の田島副大臣(民主党)に面会するということで、長島の自然を守る会や研究者らの代表が同行して、予定地周辺の環境保護を要望しました。感触は非常に良かったそうですが、環境面、自然保護の観点からのアタックというのも大切なことでしょう。

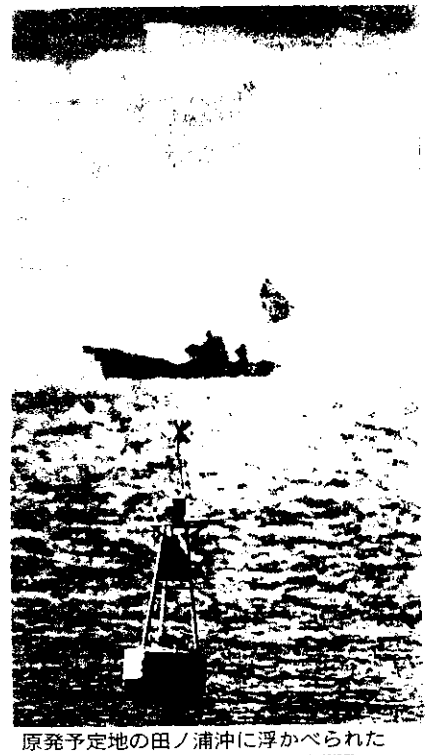
田島副大臣（左から4人目）に上関の自然保護を求める高島代表（同3人目）

10月29日 またもや!今度は早朝まだ暗い中、灯火もつけず7台の台船で残り7基のブイをつけました。島の人達が現地の様子がおかしいと暗い中駆けつけたときには、すでにブイは打たれていました。あとは、一目散に帰って行ったそうですが、時間も作業方法も無茶苦茶。一直線に並ぶはずのブイは、くの字型や逆くの字でまともに作業をしていない証拠です。ところが、中電はウソと居直りで「既成事実」を正当化しようとし、本来投下する予定だった田名埠頭のブイは「予備のもの」と

の強弁を繰り返しました。島民の会としては、この事態を受け緊急に会合を開き、中電のウソとデタラメを非難するとともに、他の仲間たちとともに田名埠頭での阻止行動を継続することにしました。

11月 1日 島恒例の『道こしらえ』(主な農道の草刈)がありましたが、本来島民上げての行事も田名埠頭組は免除され、現地での座り込み、警戒を続けました。

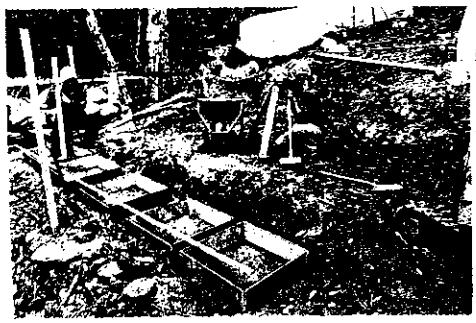
11月 3日 キエフ・ナイチンゲール合唱団の公演が島で行われました。対象が高齢者中心で、現地行動に参加できない多くの皆さんが参加し、楽しんでくれました。この間、10月29日以降中電側の動きは見えてきません。


原発予定地の田ノ浦沖に浮かべられたブイ。対岸の祝島が見える＝上関町

11月 4日 以前より計画していた、田ノ浦現地の我々の共有地に新たに中電の敷地造成を監視し、けん制する『監視小屋』建設に取り掛かりました。場所は、原発敷地の一番上方で山を削ってのり面とする所から、わずか20～30メートルしか離れておらず、原子炉予定位置より200メートル強の場所にあります。既設の拠点ログハウス(30名程度の宿泊は可能な施設で、隣接して太陽光発電9．9キロワットが稼動)『集いの場』からも、「獣道」のような農道を歩いて10分足らずのところです。内部は6畳程度の小さい施設ですが、きちんと人の住める「家」にする計画です。

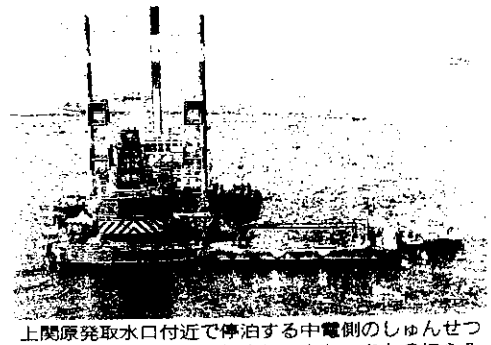
反対派、監視小屋を設置へ

上関原発計画 中電は測量スタート

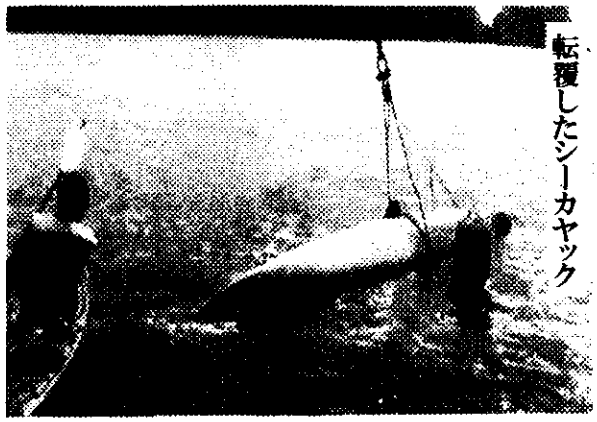

上関原発計画反対派の共有地で始まった監視小屋の建設作業

11月 5日 中電側が突然動き出し、原発の取水口予定地と原子炉建設予定地の田ノ浦湾での測量を開始しました。緊急のため、双方は阻止できませんでしたが、取水口予定海域の作業は完全にストップさせました。

11月 6日 作業台船3台が、取水口・田ノ浦・放水口予定海域それぞれに配置され、一気に本格工事のためのアンカー等を投下しようとしましたが、推進派漁協支店幹部の妨害により投下された一部を除き、大方は作業中止に追い込みました。


上関原発取水口付近で停泊する中電側のしゅんせつ船と台船。反対派の漁船やシーカヤックとのにらみ合いが続いた

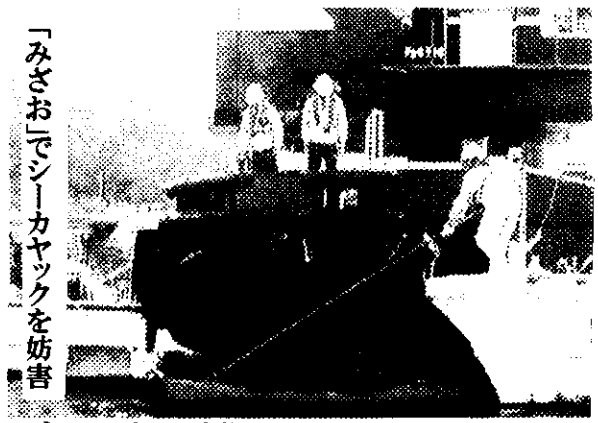
11月 7日 更に台船1台が田ノ浦湾に投入され、陸上作業用の器機を搬入する仮桟橋の延長のための浮き桟橋設置のための、アンカー投下等をたくらみましたが、海陸の阻止行動で中止に追い込みました。複


転覆したシーカヤック

数の海域での作業阻止は、困難の局地です。ただ、この日中電側は、アンカーを投下するためのクレーンのワイヤーをつかみ抗議するシーカヤを転覆させたり、シーカヤッカー1名を海上から台船上に吊り上げるという、言葉に言い尽くせない危険な行動に出てきました。いくら思うとおりの作業が出来ないからといって人命にかかわる危険な行為を平然と行う中電側の態度には怒り心頭です。

ワイヤーにつかまっているシーカヤッカーはそのまま台船上まで吊り上げられた

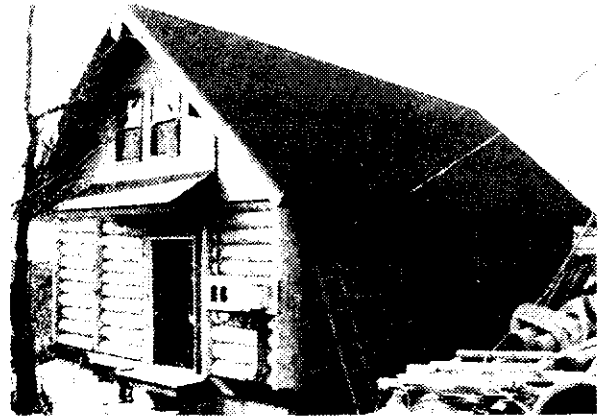
11月 8日 とうとう負傷者が出ました。田ノ浦湾には推進派の漁船(自主警戒船というらしい)が10隻も出てきて、作業台船のまわりに「コバンザメ」のようにくっついていました。その乗組員ら(警戒船・作業船の旗も立てていないし、救命道具もつけておらず、ヘルメットもかぶっていない)も作業に「協力」し、「邪魔になる」シーカヤックを「みさお」(本来船を対象物と当たらなくしたり、引き寄せたりする棒で先に金属製の金具がついているもの)を使って突き放したり、引っ張り戻すなどして、台船と漁船の狭い間にアンカーを落とそうとします。作業は推進派、抗議の反対派漁船、シーカヤックの頭上をクレーンがつるしたアンカーが動いていてもおかまいなしという非常に危険な状態で強行されようとしましたが、一人のカヤッカーが海に入り、まさに投下されつつあるアンカーのワイヤーにしがみつきました。そのカヤッカーを作業員4名が無理やり漁船の上に引きずり上げ、そのまま船上に無理やり押し付け、はては首を絞め、肩をねじるという等の暴行を働きました。その結果、そのカヤッカーは意識がモウロウとなり、仲間のカヤッカーが救助に行くまで開放されませんでした。その後、彼は我々の漁船で田名埠頭まで急送され、救急車で病院に搬送されましたが、低体温症と肺炎の疑いでそのまま入院しました。


「みさお」でシーカヤックを妨害

作業員らに暴行を受けるシーカヤッカー

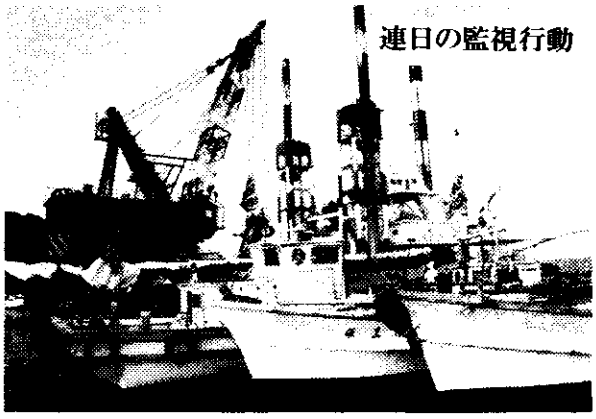
中電の発表によると「彼を助けあげた」という言い訳ですが、誰も信用しません。常にこの間の抗議行動を撮影し続けていた中電側が、その場面だけはフィルムを回していませんでしたが、我々の撮影班がその現場をちゃんと撮影しており、はっきりした証拠を確保していたのです。なおこの日、上関町内の推進派団体が山口県や中電本社に作業の進展を申し入れたそうですが、自分たちの損得ばかりを言い立て、「天下に恥をさらした」観があります。

11月 9日 昨日の「事件」の影響か、予定地周辺に「自主警戒船」の姿が見えません。さすがの中電もヤバイと考えているのでしょうか。


現地阻止行動(陸)拠点の『集いの場』

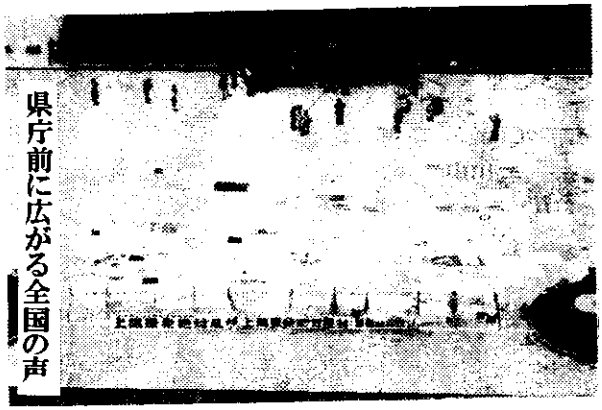
11月10日 いよいよ原発予定地が主戦場になってきたので、心残りながら田名埠頭の現地監視小屋やテント村を撤収し、田ノ浦現地の『集いの場』と対岸の祝島に拠点を移動しました。幸い、長い間共に田名埠頭でキャンプ生活で頑張ってくれたシーカヤックの皆さんのために、家が一軒確保できましたので、ここを彼らの島からの出撃拠点にしてもらうつもりです。また、『上関原発を考える山口若衆(わかいし)の会』が埋め立て工事の一時停止を山口県に要望する行動を行いました。先日の母親の会や広島、今回の山口といい若い世代が様々な形で上関原発問題に取り組み始めてくれていることは、心底うれしい限りです。

11月11日 山口地裁で、山口県知事による、原発建設のための埋立免許交付に対する取消訴訟の公判がありました。漁業権及び現実の操業実態について、県の無責任な対応、姿勢が徐々に白日の下にさらされてきます。自己保身にはしるだけで、県民の生活など全く考えてもいないようです。また、県庁記者クラブでは島民の会等の撮影した11月8日の負傷者が出た現場の映像を公開しました。そして、中電の山下社長が、東京でエネルギー記者会と記者会見を行ったそうです。もう間に合わないことがわかっている「上関原発2010年度着工、15年度運転開始」の計画について、頑固に否定を続けてきましたが、この時期になってようやく遅れることも「検討している」ことを表明しました。何をいまさらといいたいところですが、東京という場所をふまえると、計画の進展に国から何らかのブレーキがかかってきたことが考えられます。


連日の監視行動

11月12日 夜、『多田瑤子反権力人権賞』に祝島島民の会が選ばれたとの連絡がありました。賞の存在はどこかで聞いたことがありましたが、詳しい

ことは知らず、我々のような田舎の団体が受賞するとは、喜びの前に驚きが先に立ちました。よく聞いてみると、多田瑤子さんという弁護士が若くして夭折し、その遺志を将来の為に生かすため、人権、環境、反原発などの社会的困難な問題に立ち向かっている人達に贈られるもので、過去には高木仁三郎氏や元六ヶ所村村長の寺下力三郎氏らが受賞したということです。大変光栄なことで、よろこんで受けさせてもらうことにしました。

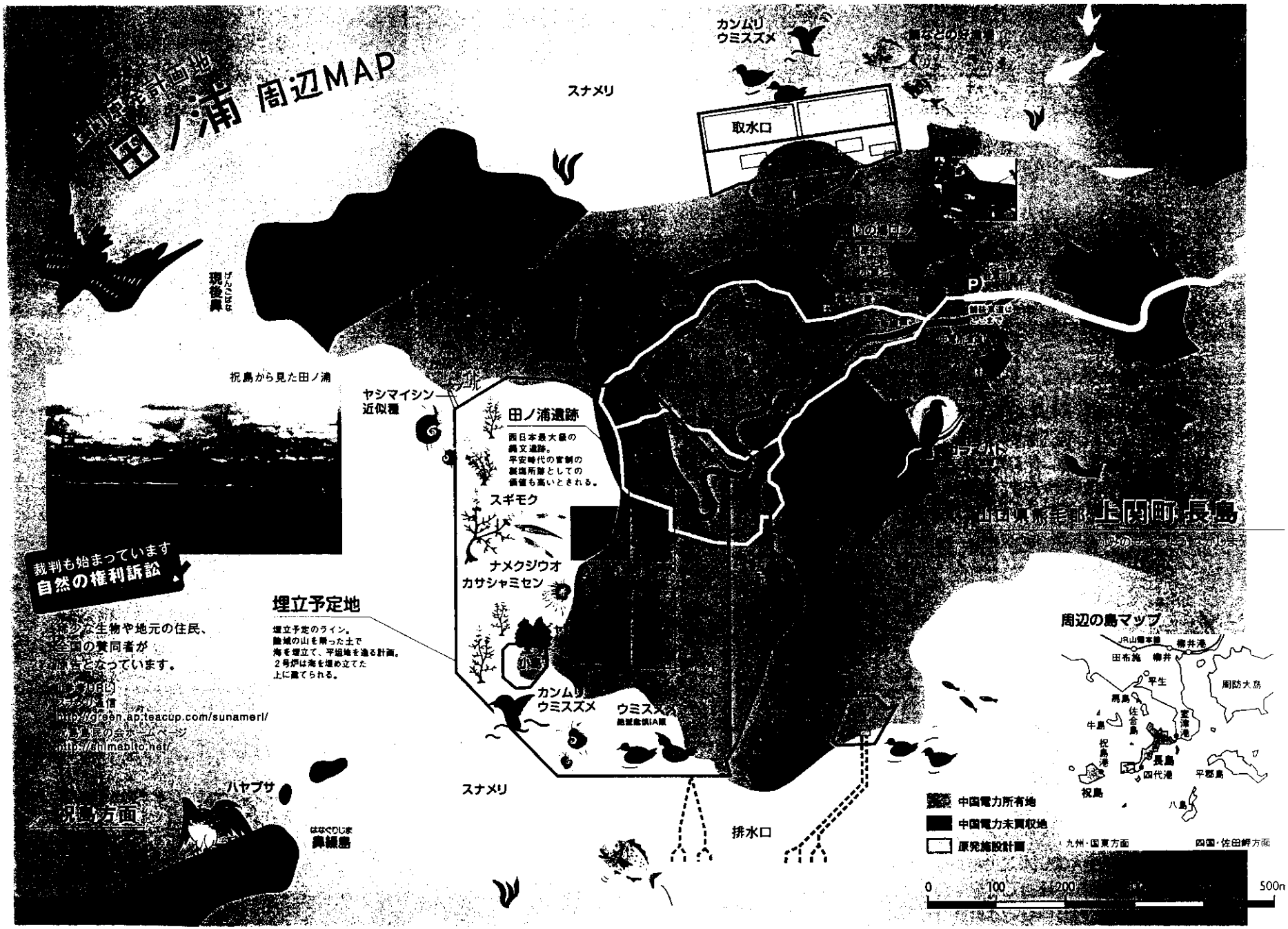

県庁前に広がる全国の声

11月13日　島民の会より約50名が県庁に出向き、代表が申し入れたほか、県庁前広場にこの間全国から送られてきた激励の旗を敷き並べました。申入れでは、8日当日の現場フィルムのダイジェスト版を公開するとともに、この間の中電側によるウソ・偽りと危険な作業実施を暴露しましたが、山口県側は完全に居直って中電側にたち、はなはだしくは「抗議行動もルールを守って欲しい」とか、怪我をした青年に対して個人的見解と言い訳しながらも「少し無謀な行為だ」とか言いたい放題でした。しかし、その強硬姿勢の端々に腰の引けた対応であることが見て取れました。やはり、県も少しはヤバイと思っているのでしょう。また、山口からの帰りに、取水口と田ノ浦湾においてあった台船各1台が現場を離れているのが確認されました。8日の「事件」以来、現場からは推進派の「自主監視船」の姿が消え、中電側も何の動きもしていなかったのですが、このようすでは当分動くことはなさそうです。しかし、監視等には十分取り組んでいかなければなりません。

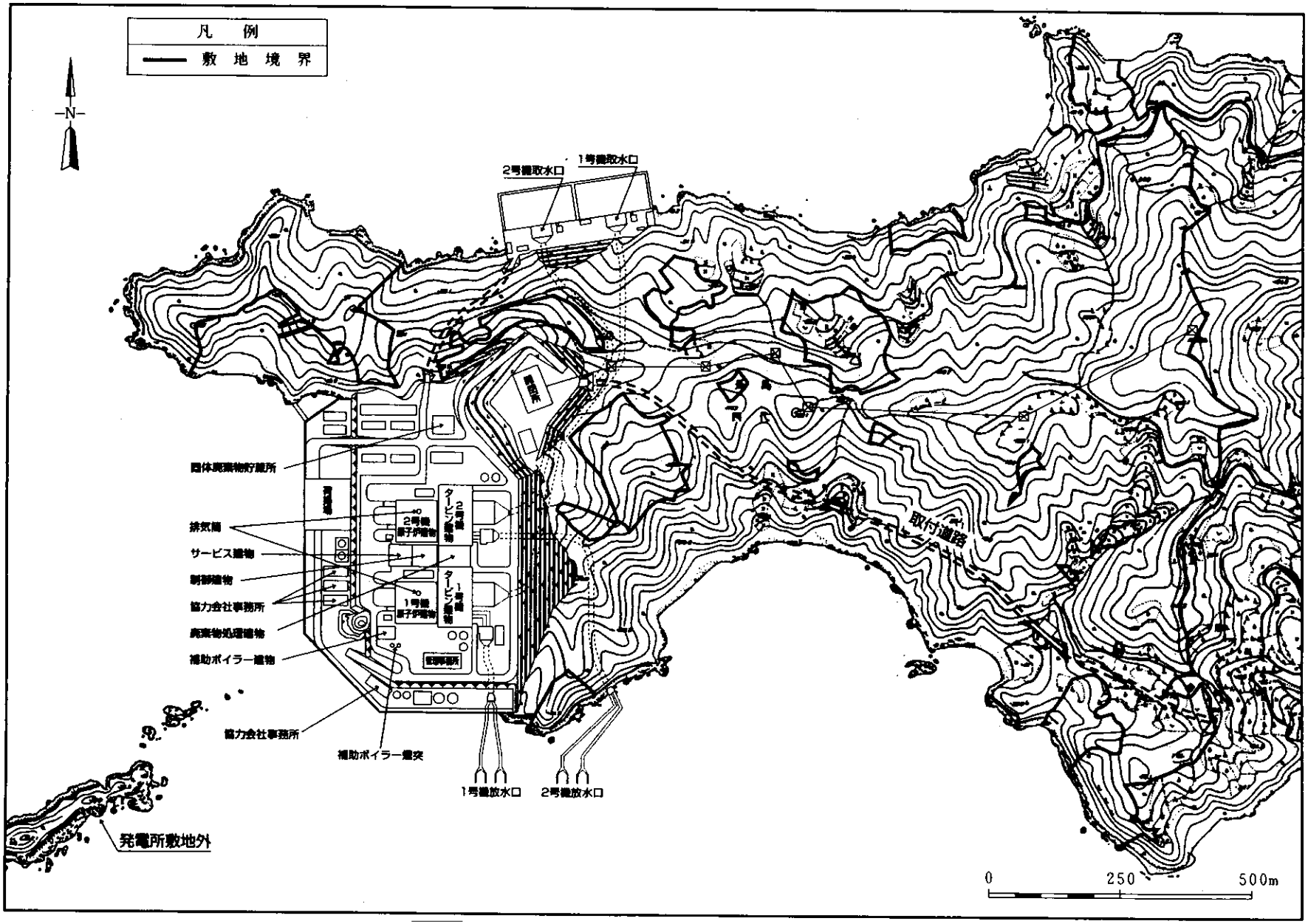
田ノ浦湾に「居座る」台船

11月18日　怪我をした本人が、相手の作業員3名と漁師1名、そして暴行を見ていながら傍観していた中電社員2名の告訴状を柳井警察署に届け出ました。また、13日以降ただ1台田ノ浦湾に留まっている「事件」の現場となった台船は、あいかわらずそのまま置かれており、島の正面に見えて、非常に目障りです。この台船は、あとコンクリートブロック2個を入れれば作業完了らしいのですが、そのためなのか、それとも事件の現場保存の為なのか、よく理由がつかめません。こちらの監視メンバーによると、台船の留守番役は中電から何の連絡もないと怒っているそうです。

11月22日　田名埠頭で若干の作業はありましたが、11月8日以来、海陸とも原発予定地では依然終らない『田ノ浦遺跡』発掘調査以外は何の動きも出ておりません。


上関原発計画地
田ノ浦 周辺MAP
スナメリ
カンムリ
ウミスズメ
取水口
現後島
祝島から見た田ノ浦
ヤシマイシン
近似種
田ノ浦遺跡
西日本最大級の
縄文遺跡。
平安時代の官制の
製塩所跡としての
価値も高いとされる。
スギモク
ナメクジウオ
カサシャミセン
埋立予定地
埋立予定のライン。
陸域の山を削った土で
海を埋立て、平坦地を造る計画。
2号炉は海を埋め立てた
上に置てられる。
裁判も始まっています
自然の権利訴訟
絶滅危惧IA類
カンムリ
ウミスズメ
ウミスズメ
絶滅危惧IA類
ハヤブサ
祝島方面
はなぐりじま
鼻繰島
スナメリ
排水口
山口県熊毛郡上関町長島
周辺の島マップ
JR山陽本線
田布施
柳井
柳井港
平生
周防大島
馬島
佐合島
牛島
室津港
祝島港
長島
四代港
平郡島
祝島
八島
中国電力所有地
中国電力未買収地
原発施設計画
九州・国東方面
四国・佐田岬方面
0
100
200
500m

発電所全体配置計画


凡例
敷地境界
N
2号機取水口
1号機取水口
固体廃棄物貯蔵所
排気筒
サービス建物
制御建物
協力会社事務所
廃棄物処理建物
補助ボイラー建物
2号機タービン建物
2号機原子炉建物
1号機タービン建物
1号機原子炉建物
管理事務所
協力会社事務所
補助ボイラー煙突
1号機放水口
2号機放水口
取付道路
発電所敷地外
0
250
500m

9月10日より始まった、上関原発建設のための埋め立て工事着工阻止の闘いは、当初工事海域を示す灯浮標(ブイ)設置を阻止するため、隣の平生町田名埠頭での行動から始まり、現在は立地予定地・上関町田ノ浦での本格工事着工阻止へと闘いの場を移しています。私たち自身、思いもかけなかった長期戦は、今現在も続行中です。

この間、多くの皆さんから励ましのカンパ、激励のフラッグ、差し入れをいただきましたが、これらの励ましのおかげで、私たちもがんばり続けることが出来ていると、心から感謝しています。本当にありがとうございます。

応援いただいた皆様には、とりあえず現在までの経過を報告させてもらいますが、今後ともよろしくお願いいたします。

2009年11月23日

祝島島民の会